



港区

みどりの街づくり賞

景観街づくり賞

区民景観セレクション

令和5(2023)年度 受賞施設等

目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設

01

日比谷フォートタワー
HOMAT SHARON
ザ・パークハウス 三田ガーデン
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー

審査会委員総評(港区みどりの街づくり賞)

05

港区みどりの街づくり賞過去受賞作品紹介

06

港区景観街づくり賞 受賞施設

07

HOMAT SHARON
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー
銀泉西新橋ビル

港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設

10

ARA PLACE AKASAKA
北青山の函
THE MODULE
竹芝クリスタルビル

港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体

14

港区アドプト・プログラム一道路・公園のボランティア活動

審査会委員総評(港区景観街づくり賞)

15

港区区民景観セレクション 受賞景観

16

都会のプライベートガーデン《グランプリ》
季節と時間のうつろいを受け止める郷土歴史館《グランプリ》
六本木ヒルズの毛利庭園
釣堀はなくなっても
青山墓地 季節を感じる景観
豊川稲荷の境内
縄文時代に思いを馳せる都会の時間
ウォーターズ竹芝の夕べ
まだ見たことのない景色へ! 東京ポートシティ竹芝のお庭
ゆるやかな光に包まれる国立新美術館
朝の三解脱門とグラント松

審査会委員総評(港区区民景観セレクション)

20

港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力を感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対 象	原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの
審査・選定基準	学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること／②維持管理が適切に行われていること／③自然環境の保護と再生に努めていること／④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること／⑤既存樹木を活用していること／⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること／⑦在来植物を取り入れていること／⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと／⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

港区景観街づくり賞・港区景観街づくり賞奨励賞

対 象	区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの
審査・選定基準	港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの／②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの／③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの／④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの／⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの
そ の 他	特に優れていると認める施設を「港区景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「港区景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈します。

港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

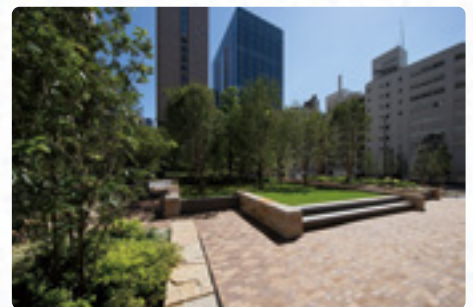
港区区民景観セレクションとは

「港区区民景観セレクション」は、区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に創設しました。

対 象	「区民が誇り、愛着を持つ街並みその他の景観」として区民等により応募されたもの
審査・選定基準	港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①地域性が感じられるもの／②波及性があるもの／③発見性があるもの
そ の 他	グランプリを選び、その応募者に記念品を贈呈します。

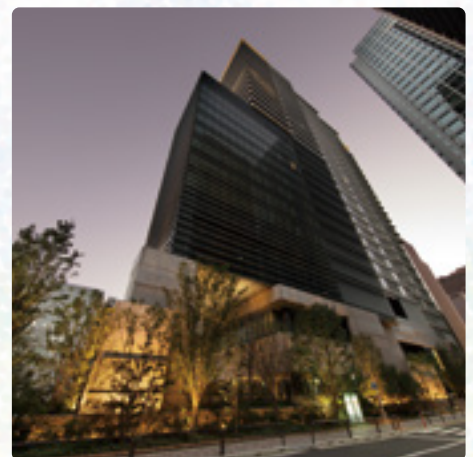
日比谷フォートタワー

管理者：日比谷フォートタワー管理組合
設計者：清水建設・日建設計 設計共同企業体
ランドスケープデザイン：N2ランドスケープ
施工者：清水建設株式会社
所在地：西新橋一丁目1番1号
施設用途：事務所、店舗、駐車場 等
敷地面積：7,688.50㎡
緑化面積：3,316.82㎡
接道部緑化延長：316.41m
緑化面積率：43.14%
接道緑化率：80.00%



選定にあたっての評価コメント

「フォート(Fort)」とは砦とか城砦という意味らしい。なるほどかい建物である。が、周囲には犬島産錆石で築いた適度な高さで長さの割肌石垣と心地よい緑が溢れる外部空間があり、建物の圧迫感を感じさせない。1階のガレリアは石材の床が心地よい靴音を奏で、まるで公共の駅のように多くの人々が自由に通り抜け、立ち止まって談笑し、ちょっとお茶するカフェがあり、目線の先には外部の緑が飛び込んでくる。そして11階にはスカイガーデン、スカイラウンジ、スカイロビーと称する場を設け、やはり誰でも自由に使える豊かな内外の空間と緑を配している。スカイガーデンに出ると、緑の向こう真正面に東京タワーが見え、ここが港区であることを満喫する。大きな大きな再開発のビルを「さあ、皆で使おうよ」「一緒に楽しもうよ」と、季節を感じる植栽と石を巧みに織り交ぜて「みんなのもの」として作り上げた心意気に感激する。提供緑地の使われ方の展開も楽しみだ。



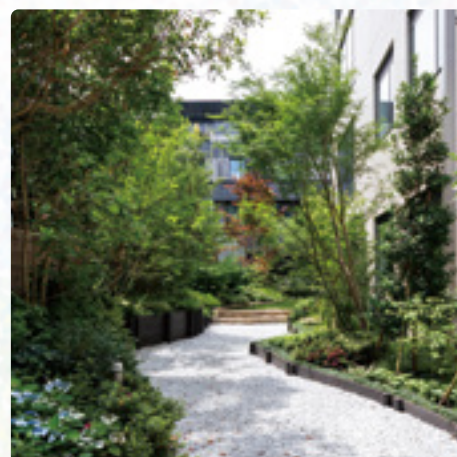
HOMAT SHARON

所有者：日鉄興和不動産株式会社
設計者：設計・監理：株式会社大林組一級建築士事務所
設計監修：ホームマトホーム株式会社
施工者：株式会社大林組
所在地：南麻布四丁目9番3号
施設用途：共同住宅（賃貸）
敷地面積：6,105.77㎡
緑化面積：1,060.54㎡
接道部緑化延長：85.62m
緑化面積率：17.37%
接道緑化率：85.00%



選定にあたっての評価コメント

外国人向けの高級賃貸を標榜するだけに、建築内部は機能的な「洋」を、外構は「和」をめざす設計を意図しているという。接道部の緑化は、吟味された植栽木の選択に加え、大径木を採り入れて、ここ周辺を通行する人々、つまり地域社会への貢献の姿勢が認められる一方、日々これを眺める居住者も緑の豊富さを感じられよう。エントランスに向かう外構には明るく軽やかな植栽が施され、セミパブリックなエントランス部分に入ると、「空中庭園」が目飛び込んでくる。建築内部に取り込まれた緑を見せる手法を用いて、緑豊かな環境に住むことを印象づけることに成功している。居住者にとってはもちろん、そこを訪れる人々もそう思うことだろう。現在すでに建築内部及び外部に上質な緑を提供しているが、今後この水準（手入れ）を維持できれば、地域を代表する緑のコアとして、まさに「みどりの景観街づくり」に大きく貢献できよう。



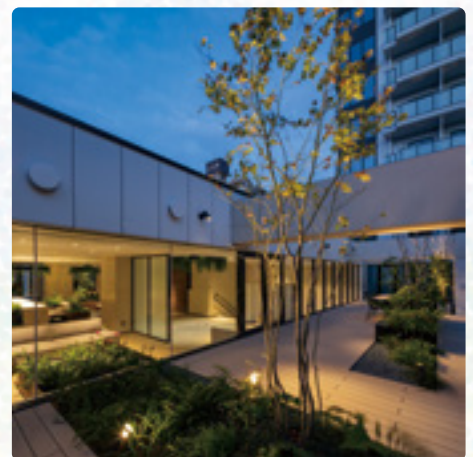
ザ・パークハウス 三田ガーデン

所有者：ザ・パークハウス 三田ガーデン管理組合
建築主：三菱地所レジデンス株式会社
三菱倉庫株式会社
大栄不動産株式会社
設計者：株式会社フジター級建築士事務所
施工者：株式会社フジタ東京支店
(植栽)アゴラ造園株式会社
所在地：タワー棟：三田五丁目2番22号
レジデンス棟：三田五丁目2番27号
施設用途：共同住宅
敷地面積：5,253.55㎡
緑化面積：1,061.85㎡
接道部緑化延長：129.19m
緑化面積率：20.21%
接道緑化率：88.00%



選定にあたっての評価コメント

「ガーデンミュージアム」と定義された住宅は、屋内外の緑環境にアートを配し五感を刺激する仕掛けがいくつもあつた。ここに住まう人は日常の暮らしの中に新たな環境に価値観を見出すものであつた。接道の緑化は豊かで、郷土種をベースにした植栽の他、蝶や鳥などの生き物を誘致する花木や実のなる木が植栽され、緑と多様な生き物の新たな住処となっている。地域の歴史文化や界隈性を緑やアートで表現していると感じる。地域沿道への緑の寄与の量は大きいものがあるが、もう少し建物や広場空間にヒューマンなスケール感と緑の工夫が欲しかった。また「みどりの街づくり」を考える上で公開性は常に必要なものであるが、居住者用に緑とコミュニティの場に2階に設置されている「ガーデンサロン」は、公開性はないが共同で暮らす楽しい暮らし方、室内緑化の企画や管理面を評価したい。この空間が外部道路からも見える所にあれば沿道景観も更に良いものになるであろう。



虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー

所有者：森ビル株式会社
設計者：竹中工務店東京一級建築士事務所
施工者：竹中工務店東京本店
所在地：愛宕一丁目1番1号
施設用途：共同住宅、店舗、子育て支援施設、スパ
敷地面積：6,535.76㎡
緑化面積：2,443.31㎡
接道部緑化延長：171.20m
緑化面積率：37.38%
接道緑化率：80%



選定にあたっての評価コメント

愛宕神社と虎ノ門ヒルズ森タワーの間をつなげるように配置された、54階建の建築物の東側1～3階部分のテラス状の植栽帯が特徴。愛宕神社の緑地が当該建物の北に位置する虎ノ門ヒルズ森タワーとつながるように建物東側の北から南までしっかり緑の軸を形成している。樹種はシラカシやアラカシ等の自然植生を基本としたものに、庭木や公園木として親しまれている季節豊かな表情を見せるソメイヨシノやアジサイ等もとりいれ人々を楽しませている。4階～8階の東側庇上部も緑化され東側全体に緑が広がる様子がうかがえる。愛宕神社に接する南側は東と西をつなぐ裏動線のような空間ではあるが、起伏をうまくつかい魅力的な緑の露地が形成されている。ステップガーデンは限られた植栽空間のため植物の生長に合わせた手入れが必要となり、当初予定していなかった草本も入れられているようだが、今後も愛宕神社と調和する緑化を心掛けていただきたい。

審査会委員総評

より求められる社会貢献

「港区みどりの街づくり賞」が創設されて、今年で20年になる。こうした受賞した施設が、区内にはキラ星のように存在する。この蓄積は今後の発展に大きく寄与するはずだ。

今回受賞したのは4件。鑄石で区画された外構デザインが特徴的な物件は、そこに存在した江戸城外堀を下敷きにしている。また高級志向の物件でありながら、敷地内のみならず周囲にも配慮した配植に新展開がみられるものがあった。また空間的な共有にとどまらず、さらに踏み込んだ外部との交流を目指し、成功している事例もあった。4件目は54階建ての超高層ビルを伴うものであるが、これほどの規模があれば、社会的な責任も大きい。地域の文化・景観に対する貢献も求められるはずだ。もしその土地の自然、歴史を尊重するのであれば、広重の描いた愛宕山も植栽木の選択にその植生を参照するのみではなく、また既存の超高層ビルの外構の発想を遙かに超えるものを目指してほしい。



赤坂 信

千葉大学 名誉教授



山崎 誠子

港区景観審議会委員
日本大学短期大学部
建築・生活デザイン学科 准教授
有限会社GAヤマザキ 取締役

見せて!魅せて!

今回の受賞作はどれも街を訪れるひとにタダで、緑地の快適さ、潤いさ(こんな言い方はないか…)、見目麗しさを提供してくれるものばかりです。また、その建物の住民や利用者しかわからない部分もしっかりあって、住民になりたい、利用者になりたいと思わせてくれました。的確な言葉がみあたらないですが、受賞作はどれもチャームング。沢山の植物をいれていることや、植え方の工夫も大事ですが、「これ面白い」「他にはみたことないな」みたいなことに、デザインや施工している方々の工夫や楽しさみたいなものを感じました。ここ見てほしいなあという気持ちが伝わる作品でした。

緑地の量ではなく、質が問われる緑の街づくり賞です。毎年書いているかもしれないですが、年々その内容が充実しています。候補となりましたが、今回は受賞しなかった作品は数年前であれば受賞していたレベルです、楽しむ、魅せる緑化でぜひ次も頑張ってください。

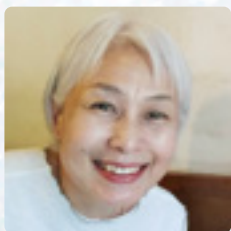
みどりが持つ力の多様性の展開に期待

審査を通じて特に印象に残ったことは「みどりが持つ力」の大きさと展開が多様になってきていることです。緑の大きな塊を創出した「人と生きもののアイランド」機能を担う建物外周の緑地や建物内の一部を屋上庭園として地域の人々に開放し、憩いと街を見せる場を創っているところ、常にプロジェクトのコンセプトにある和風の植栽スタイルを継続しているところ、新たな“心のよりどころ”となる里山のような緑の創出、アートと融合させた五感を刺激する緑の使い方など、みどりが持つ力が活かされた、多様な展開がありました。また大きな開発が多くみられる状況にあっても、開発の大きさではなく、緑の技術に特化したもの、コミュニティをうまく創る緑、生物多様性の緑など、キャッチーな緑の効果を評価する等、この賞が継続されていく中で、緑の評価の視点もより多様に変化するものと思います。これからも質の高い効果的な緑の在り方を考えた展開に期待します。



大橋 尚美

元港区景観アドバイザー
株式会社戸田芳樹風景計画
顧問



藤野 珠枝

元港区景観アドバイザー
藤野アトリエ一級建築士
事務所 主宰
港区在住

みどりはみんなのもの・人が関わり育つもの

約2年前に完了した建築計画に伴う緑化施設から「港区みどりの街づくり賞」を選定するわけですが、大きな再開発が続いている港区では、今回もその候補には大型案件が多かった印象です。また、今回の候補案件には、その建物居住者・利用者のみが享受する内部植栽やプライベートガーデン、さらにはアートを絡めた緑も複数あり、いずれも素晴らしいのですが、「みどりの街づくり」に該当するのかは、ちょっと疑問でした。そんな中で「みどりはみんなのもの」だから「みんなで楽しもうよ」と元気よく示してくれた案件は、再開発の大きさを感じるよりも緑が織り交ぜられた空間の豊かさが勝り、この緑が多くの子供や若者の姿と共にあることは、まさに「街づくり」だと感じました。緑は生き物、日々成長します。20年後、50年後にはどんなふうになっていくのかが楽しみですが、それには次代へつなぐ心意気を持った方々の日々の管理と関わりが大事だとあらためて思う次第です。

平成16年度受賞施設を歩いてみました

平成16年度に始まった「港区みどりの街づくり賞」は、令和5年度に第20回目を迎えます。優れた民間緑地を顕彰し、より一層の緑化を推進するために設けられたこの制度で表彰された作品は、歳月を経て緑豊かな街並みを形成し、人々の憩いの場として、またさまざまな生きものの住処として、重要な機能を提供してくれています。受賞施設の一部の成長をご紹介します。

六本木ヒルズ(六本木六丁目10番他)

六本木ヒルズは、さくら坂、毛利庭園、けやき坂通りなど緑の名所を擁しています。毛利庭園では、宇宙から帰還した「宇宙メダカ」や、カルガモ親子が訪れるなど、様々な生きものの生活の場となっています。屋上庭園には水田があり、地域の方を対象に食育や稲作体験の機会を提供する取り組みが行われています。

平成16年度受賞当時の評価コメント

旧毛利邸池の再生や最新の緑化技術を駆使して壁面や屋上緑化についても多彩な植栽となっている。ガーデンプラップの設立など、先駆的な取り組みも評価されている。

平成16年(2004年)春



櫻坂当初の様子

令和4年(2022年)秋



樹木が成長し樹高が高くなりました

平成16年(2004年)春



工事中の毛利庭園

令和4年(2022年)秋



池や植込みは、生きものの住処となっています

品川セントラルガーデン(港南二丁目16番)

品川セントラルガーデンは、品川駅港南口の「品川インターシティ」と「品川グランドcommons」の間を通る大型歩行者空間です。400本超の高木は、20年間で幹が太く成長し、大きな樹冠を形成しています。幅約45m、長さ約400m、面積2haの広大な歩行者空間を自由に歩くことができます。

平成16年度受賞当時の評価コメント

クス、シラカシ、カツラなどやさしいみどりの常緑樹を主体に、豊かな樹林を創出している。様々な表情をもつ多面的な緑化も高く評価された。

平成16年(2004年)春



カツラの列植の当初の様子

令和4年(2022年)秋

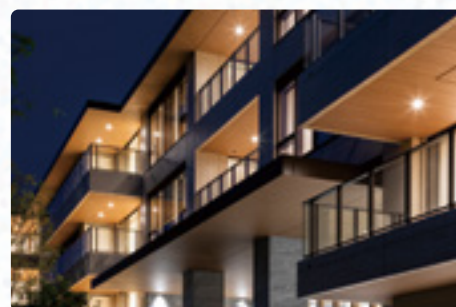
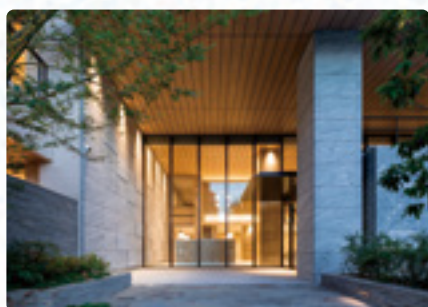


幹が太く、樹高が高くなりました



HOMAT SHARON

事業主：日鉄興和不動産株式会社
設計者：設計・監理：株式会社大林組一級建築士事務所
設計監修：ホームットホーム株式会社
施工者：株式会社大林組
所在地：南麻布四丁目9番3号
施設用途：共同住宅（賃貸）
敷地面積：6,105.77㎡
高さ：21.97m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- この建物の魅力は、周囲の街並みに調和した景観の作りである。外周部は地域性の高い樹木が配置され、在来植物を中心に多様な植物が植えられている。特に歩道部の緑地は外壁の圧迫感が出ないように作られ、地元の人たちにも親しみやすい緑地となっている。内側には外国人居住者に合わせた植物が選ばれていて、多様性と個性を感じられる。常緑樹と落葉樹がバランスよく組み合わせられており、一年中季節の移り変わりを楽しめるようになっている。
- 都心にもそこに特有の生態系があり、その多様性は重要である。この一帯は有栖川宮記念公園や外交団施設が点在する、都心には貴重な緑あふれる空間である。この集合住宅の建設に際し植えられた多くの木々は、緑の回廊の形成に貢献し、鳥類や昆虫の生息・生育環境を育てていることだろう。住む人にとってばかりではなく、道行く人にも、さらに周辺の環境にも豊かさを提供する、こんな素晴らしい建築計画が次々と生まれることを期待する。



既存レンガを再利用し景観を継承



虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー

事業主：森ビル株式会社
設計者：株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所
施工者：株式会社竹中工務店東京本店
所在地：愛宕一丁目1番1号
施設用途：共同住宅、子育て支援施設、店舗、スパ
敷地面積：6,535.76㎡
高さ：214.95m
景観協議の対象行為：建築物の新築



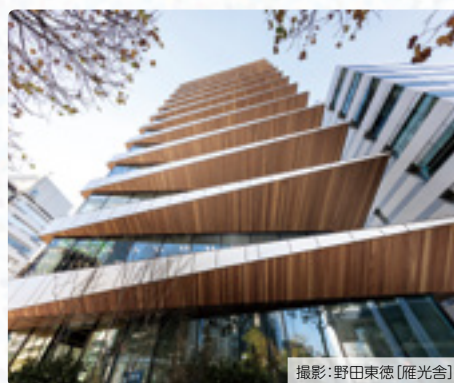
審査委員コメント

- ① 水平庇を基調としたデザインにより高層部から低層部まで連続性のある外観にまとめ上げられており、特に中層部から低層部においては植栽・バルコニー・階段など様々な要素に対して庇の形状やピッチが丹念に操作され、建築と環境とが一体に溶け込むような空間が創出されている。愛宕山につながる緑のネットワーク形成のために植栽も吟味されており、扇状にせり出した低層部の軒先が、豊かに生育した新旧の緑へと視覚的な補助線としても機能している。
- ② 敷地内だけでなく、前方建物の緑地空間と連続するように計画的に配置され、緑のネットワークが形成されている。緑地と一体的に作られている広場には、ステップガーデンが作られ建物の存在感を和らげ広がりがある空間となっている。愛宕山の在来種を中心に高木・中木・低木がバランスよく植栽され、既存の緑との一体感がとれていた。さらに地被類や草花も植えられ季節を楽しめるようになっていた。一年を通して心地よい空間になると思う。



銀泉西新橋ビル

事業主：銀泉株式会社
設計者：株式会社日建設計
施工者：株式会社大林組
所在地：西新橋一丁目15番4号
施設用途：事務所、物販店舗、自動車車庫
敷地面積：868.81㎡
高さ：58.375m
景観協議の対象行為：建築物の新築

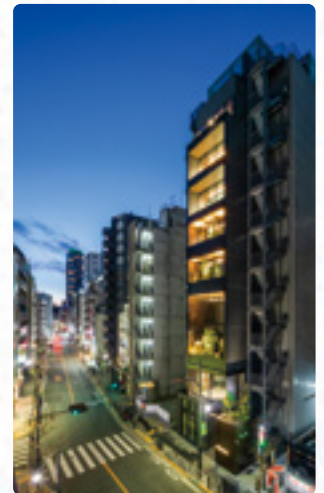


審査委員コメント

- 1 日比谷公園側から来るとビジネス街へ踏み込んだと実感する交差点だった。そこに木材の軒天や屋上緑化が窓越しに見えるビルが計画され、新しいビジネス街の誕生を思わせた。場の魅力を違う視点から掘り起こし、木材活用制度を積極的にデザインに活かした事例。上層階オフィスの照明が見えるなど何気なく生活や仕事の息遣いを感じさせ、親しみを覚えさせる。エントランスは石材で品格を出し、外構の石は角を丸くするなど気配りも感じる。
- 2 外堀通りと日比谷通りの交わる交差点に対してダイナミックな斜めの庇を張り出すことで、単調になりがちなオフィス街に特徴的な景観を創出している。東側のメタリックな横連窓から北側の木質の庇へとファサードの表情がグラデーションに変化していく構成も大変魅力的である。庇の軒天には天然木が使用され、複数の厚みや幅の材を源平貼りとしている。真物らしい立体感ある表情を生み出すための細部の工夫も木質化による景観まちづくりの好例である。

ARA PLACE AKASAKA

事業主：青山リアルティー・アドバイザーズ株式会社
設計者：株式会社IAO竹田設計
施工者：日本建設株式会社
所在地：赤坂五丁目4番15号
施設用途：事務所、店舗
敷地面積：182.89㎡
高さ：40.87m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- 1 建物は、コンパクトながらもテラスを巧みに活用して緑化を行っており、景観に配慮したデザインとなっている。各階のテラスは、天井高さや奥行きなどが変化しており、それぞれに個性がある。ただし、敷地前の歩道が狭く、反対側から見ないと緑化が目立たないのが残念であった。また、赤坂らしく、夜にはライトアップされており、建物の表情が変わる。周囲には緑のある建物が少ないので、この建物がきっかけとなり、緑あふれる建物が増えることを期待している。
- 2 乃木神社の前の緩い坂道を下ると、通りは徐々にぎやかになり、赤坂サカスを経て日枝神社に至る。だが赤坂駅を降りて逆向きに坂をのぼると少し印象が違ふ。通りの両側のビルはいずれも間口が狭く、空に向かって伸びている。小さな区画の土地を有効に使おうとするのは場所柄いたしかたない。その中であってこの建物は床面積を少々犠牲にしても緑をビルに取り込む工夫が素晴らしい。この建物がこの通りに並ぶ他のビルの建替えに際して先駆的事例となることを期待する。

北青山の函

事業主：木村デザイン事務所
設計者：三幣順一／A.L.X.
施工者：ヨシナガ工業
所在地：北青山一丁目5番15号
施設用途：住宅(デザイン事務所アトリエ)
敷地面積：26.69㎡
高さ：7.75m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 極小の建築規模。ファサードの透過性。周囲との対照性が街を引き立てる。この建築はその意味で面白くはたらい。スケルトンで設計しても居住者はブラインドで視線を遮るものだが、内階段で居室のプライバシーを守る仕組みが透過性の保持に繋がっている。道行く人はこの建築を前に俳句のような軽妙さ、あるいはユーモアを感じて微笑むだろう。施主も設計者もそれを狙ったわけではあるまいが、そんな素質をお持ちであればこそその成果とみた。街が華を得たのだ。
- ② 青山通りと神宮外苑の銀杏並木に挟まれたこの一角を外から訪れる人は多くないだろう。だが意外に広い道幅と人も車も少ない静けさが開放的な空間を形成している。その中にさらに開放的な構造のこの建物。螺旋階段が外からの目隠しとなり、中からは銀杏並木を借景するという、実に工夫に富んだ設計である。こんな小規模でも印象的な建物が増えてくれると港区が街歩きに楽しい場所になっていくことでしょう。

THE MODULE

事業主：小沢 大助
設計者：株式会社アル.パートナーズ建築設計
株式会社リアルゲイト
有限会社ジャモアソシエイツ
施工者：株式会社ナカノフドー建設
所在地：六本木七丁目2 1番2 4号
施設用途：店舗、事務所、共同住宅
敷地面積：1,058.70㎡
高さ：18.95m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- ① 高低差のあるこの敷地の特性にヴォリュームの構成が応じていて見事だ。北西側からの視線を特に意識したというその狙いは達成されたと思う。しかも、西側道路に面した低層部をエレガントに際立たせ、歩行者目線での街並み景観を好適に創出している。東側は斜線制限に苦しんだ跡も見られるが、半地階とその上階には店舗もしくはショールームを充てて、街の賑わい形成に一役買っている。この地域に魅力的なランドマークが誕生したといえよう。
- ② 国立美術館や大学の近くという立地で、クリエイティブな人々が集まってくるまちにしていこうという意図が感じられるデザイン。通り側はデザインスクールへの敬意が伝わってくる形状やサイン、多治見のタイルで風趣を感じさせ、回り込む路地側はオフィスやレストランなどを意識して心休まるよう、四季を味わえる植栽を配置。歩く楽しみや周辺の店舗のデザインともなじませる心遣いが感じられる。今後の周辺の展開が期待される。

竹芝クリスタルビル

事業主：鈴江コーポレーション株式会社
設計者：鹿島建設株式会社 建築設計本部
施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店
所在地：海岸一丁目14番2号
施設用途：事務所、駐車場
敷地面積：2,145.32㎡
高さ：40.15m
景観協議の対象行為：建築物の新築



審査委員コメント

- 倉庫が立ち並ぶ地区であったが、住居やオフィスとして人が多く訪れる街区になりつつある。そのまちを創り続けてきた企業らしく、地域とのつながりを想い、空や周辺を映しこむガラスを用いて、まちを支える気持ちが伝わってくる。緑も少ない街区であったが、外構の緑は色の違いで流れるような構成とし、メンテナンスに気を遣い、通りを歩く人々を何気に気持ちよくするよう配慮。屋上の植栽も緑豊かさを目指す周辺との連携を感じさせる。
- 竹芝駅前の好立地に対して建物ボリュームをセットバックすることで、前面道路と連続したゆとりある帯状のオープンスペースを創出している。ディテールに配慮した端正なガラスファサードは街とオフィスとのつながりを感じられる透明感を生み出しつつ、時に移ろう朝夕の光を映しこみながらこの場所に新たな表情を創出している。ミニマルなボリュームの中に屋上テラスやバルコニーも計画され、港区らしい周囲の景観を享受できる仕掛けも魅力的である。

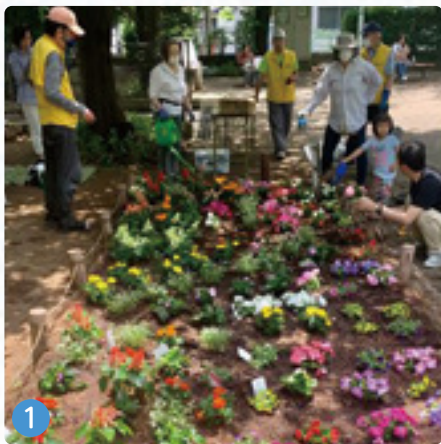
港区アドプト・プログラム 道路・公園のボランティア活動

港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々道路・公園の維持管理(清掃や花壇管理等)を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となった清掃・修景を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



令和5年度景観街づくり賞特別賞 アドプト登録団体一覧 活動継続5年を経過した団体(令和4年度末時点)

	実施団体	場所・種別	活動内容	地区
①	仲筈町会	公園	草花植付	麻布
②	グリーンフィールド	児童遊園	花壇管理・生物資源の保全活動	高輪
③	亀塚公園関東タンポポを守る会	公園	関東タンポポ保全場所の保管理	高輪
④	白金緑の会	道路	花壇管理	高輪
⑤	安田倉庫株式会社	運河沿緑地等	清掃活動	芝浦港南
⑥	TMES 株式会社	道路	花壇管理	芝浦港南

アドプト・プログラム問合せ アドプト・プログラムについて 各地区総合支所まちづくり課土木担当

各 地区 **芝 地 区** 03-3578-2032 **麻 布 地 区** 03-5114-8803 **赤 坂 地 区** 03-5413-7015
 電 話 番 号 **高 輪 地 区** 03-5421-7664 **芝 浦 港 南 地 区** 03-6400-0032

審査会委員総評

景観の魅力を高める多様な解

わたしたちには景観向上のための願いがある。大きなプロジェクトはそれ自体として好適な空間と景観を新しく生み出せるが、道行く人がそれを享受できるようにしてほしい。オフィスビルなら低層部を店舗にするなどして社員以外もそこに関わる手がかりを作ってほしい。これまで景観をあまり意識しなかった街に、新しい風を吹き入れるような仕事も歓迎したい。こうしたさまざまな願いに対して何をどうすればよいのか。ここに正解などはない。厳しい制約の中、施主・設計者諸氏が導き出した多様な解を噛みしめ、味わい直すのが審査会であることを痛感した。今回、景観アドバイザー推奨の7件が審査会を経て全て授賞対象となった。私の記憶ではこれは初めてのことである。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学
名誉教授



杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

場の魅力・記憶を活かす、 素材・デザインへの積極的な取り組み

今回は場の特徴や歴史などを様々な方向から検討し、素材にこだわり、それを活かす形状や配置を展開するといった計画が多かった。近年コストパフォーマンス重視でシンプルさを目指す傾向が強まってきたが、候補作それぞれ、少しでも周辺への提案をしたいという意欲が伝わってきた。規模の大小に関係なく、まちの地形や成立ちを継承しつつ、魅力を増幅させるデザインへ積極的に取り組んでいることが素晴らしい。それぞれ目指す地域イメージを明確にし、表情豊かにまちを創り上げることを目的としてアイデアを出し合った結果と言えそうである。景観デザインの変化の兆しかと期待が高まり、この提唱が各分野に拡がるとしたら、今後の港区の姿が楽しみである。

街並みの景観はそこに暮らす人々の意識の反映

私がかつて暮らした東南アジアの3都市の中心街はいずれも旧宗主国の首都を模した緩やかな曲線で構成されるクリーム色の建物が街区を形成していた。同じ東南アジアの仏教国で目にした街並みには、通りから各戸の敷地の芝生が見渡せる、まるで街全体が公園のような景観が広がっていた。後年、ロンドン郊外の住宅街で同じ景観を目にすることになる。街の景観はそこに暮らす民族の文化や美意識の上に形成されるのだと理解した。翻ってこの時代に新たに作られる数多の建造物が形成する港区の景観は、後世、どのように評価されるのだろう。多くの日本人の美意識に共鳴する建物が増えることに期待する。

奥平 浩

港区景観審議会
区民委員



村井 一

港区景観アドバイザー
合同会社村井一建築設計
代表

人と環境とが交わる、奥行きある景観形成

港区は武蔵野台地の高台から東京湾まで環境の変化に富んでおり、その場面展開の豊かさが魅力のひとつである。審査対象はそれぞれの敷地特性や環境の変遷を真摯に読み取った作品であり、計画スケールや設計条件に違いはあれ、建築・ランドスケープ・素材・色彩といった要素が丹念に関係付けられながら新たな表情が創出されていた。特に敷地内外に連続したプロムナードや庇やバルコニーをいかしたファサードなど、奥行きのある中間領域が共通して豊かであり、人と環境とが一体となった空間がそれぞれの場所・時間に展開する景観の魅力を引き立てる仕掛けとなっている。これらの選定作品をまた起点として、また新たな港区の景観が連歌のように紡がれていく事を期待したい。

魅力ある緑がたくさんありました

今回の作品は、大きな施設から小さな住宅まで、さまざまな用途や規模でしたが、それぞれに独自の魅力がありました。各作品は、建築・景観・緑化に関するこだわりや考え方があり、周囲の街並みに溶け込むようにデザインされたものや、逆に周囲の景観を利用したものまで多彩なものでした。多くの作品が植栽を積極的に取り入れ、また地域性や環境を考え緑化を行っていました。そのような考え方の事業者は、日常的な植栽管理を行ってくれているので植物の状態がとても良く心地よい空間になっていました。これらの作品は、港区の景観や緑の可能性やポテンシャルを高めるとともに、建築と自然の共生を示してくれると思っています。

岩男 弘美

港区景観アドバイザー
有限会社GAヤマザキ
シニアディレクター





都会のプライベートガーデン

テーマ: 私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

東京タワーの足元にあるプライベートガーデンは、都会の喧騒を忘れさせてくれるオアシス的な場所。広場は手入れされた芝生やバラ園があり、人もまばらでゆったりとした時間を過ごすことができる。広場からは東京タワーのほかにも、高層ビル群が一望できる。この場所は東京タワーや高層ビル群の魅力を感じることができる素晴らしい場所であると思う。

その他の評価コメント

▶ 内容とメインテーマとの関係が比較的明瞭。景観的なインパクトも十分。

応募者からの推薦コメント

「Prince Shiba Park」のんびりと芝生の上から東京タワーの全貌が堪能できます。タワーの迫力ある姿が力を与えてくれるような…私のパワースポットです。

応募者: 沖山 恵太郎 (区内在住)



季節と時間のうつろいを受け止める郷土歴史館

テーマ: 私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

公衆衛生院として東大医科学研究所1号館とともに1938年に内田祥三に設計された。内田ゴシックともいわれる荘厳さを感じさせる建築で、スクラッチタイルやアーチなど当時の素材や空間を実感できる。周辺の緑も充実し心地よい。光がとれる夕刻には、さらにゆとりある豊かさを感じさせ、歩を緩めて時を満喫したい。

その他の評価コメント

▶ 歴史的建物も解体される中、貴重な建物であり地域景観に大きく影響を及ぼす。

応募者からの推薦コメント

「空高くそびえ立つ、左右対称で重厚、周囲の風景との包まれる様な一体感(=美しさ・安心感・調和)」が素敵な建物だと思います。

応募者: 堀田 勉 (区内在勤)

安田講堂を手掛けた東大の内田祥三教授の「内田ゴシック」と呼ばれる外観は、建築というより芸術的な景観である気がします。

応募者: 一之瀬 稔 (区内在住)

港区区民景観セレクション

六本木ヒルズの毛利庭園

テーマ: 私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

江戸時代の武家屋敷を起源とするこの場所は、テレビ朝日や六本木ヒルズの中庭のようだ。麻布台地の起伏を利用し高層ビルを背景に水と緑が俯瞰できる。ビルと高速道路に囲まれた六本木通りから訪れると、なお印象的である。

その他の評価コメント

▶20年を経て国内でもすっかり有名な庭園となった。

応募者からの推薦コメント

時々訪れる毛利庭園は、小さな池に四季折々の彩りと、都心の再開発ビルを映して時の流れを楽しませてくれる景色スポットです。応募者:橋本 武正(区内在住)



港区区民景観セレクション

釣堀はなくなっても

テーマ: 自然・地形を感じる景観



選定にあたってのコメント

この小さな坂は江戸切絵図には見えず、明治期の麻布区全図にも見当たらない。終戦直後の港区詳細図にはそれらしい小道が見える。江戸・東京の坂道の中では新米で、薬園坂の子分格だが釣堀坂という名前をもらえてよかった。

その他の評価コメント

▶地形的特徴は景観に及ぼす影響は大きく、特に坂道は魅力的。

応募者からの推薦コメント

由来となった釣堀、衆楽園は姿を消しました。それでも釣堀坂は変わらず、子供たちの笑顔と共に新たな歴史を刻み続けます。応募者:中川 玲王名(区内在住)



港区区民景観セレクション

青山墓地 季節を感じる景観

テーマ: ランドマーク景観



選定にあたってのコメント

周辺のビルから見下ろす青山墓地は小さな森のようだ。中央を走る桜並木だけでなく、季節の花情報がWEBサイトに公開される植生豊かな場所である。墓地の隅々まで巡れば、季節毎に加えて高低差による景観の変化が楽しめる。

その他の評価コメント

▶散策路・都市公園としての青山墓地の価値をよくとらえた風景です。

応募者からの推薦コメント

青山墓地の中央を走る桜並木は、花の季節、新緑の季節、紅葉の季節、落葉の季節、それぞれ美しく、散歩道となっています。応募者:藤井 京乃(区内在住)



港区区民景観セレクション

豊川稲荷の境内

テーマ: 歴史・文化を感じる景観



選定にあたってのコメント

政治とビジネス・国際交流の中心地赤坂からお洒落な青山通りの坂を上ると赤い提灯が目を引く。豊川稲荷は実は宗教法人豊川閻魔寺という曹洞宗の寺で、大岡越前守からのご分霊をお祀りしているとのこと。江戸の武将の気持ちも漂ってくる。

その他の評価コメント

▶『映え』する景観。

応募者からの推薦コメント

正式名称は、豊川稲荷東京別院だそうです。キツネの石像が並ぶ光景に圧倒されます。
応募者: 寺田 順彦(区内在住)



港区区民景観セレクション

縄文時代に思いを馳せる都会の時間

テーマ: 私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

縄文時代の住居跡と貝塚断面の復元展示されている区唯一の遺跡公園です。明治維新後に華頂宮邸として使われた建物の外壁や、関東大震災のときに水を供給した井戸なども残っています。この公園は古代から近代までの歴史を感じられる場所です。

その他の評価コメント

▶海のまちの港区のルーツを感じさせる資源。

応募者からの推薦コメント

忙しい毎日が続いた時などに訪れます。遥か昔の人々の営みに思いを馳せ、人々が積み上げてきた歴史の中に生きていることを実感します。

応募者: 山内 康子(区内在住)



港区区民景観セレクション

ウォーターズ竹芝の夕べ

テーマ: 私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

東京湾や隅田川を楽しめる船着き場、海に生息する生物を観察できる希少な竹芝干潟、イベントに参加できる芝生広場のプラザが一体化し、緑豊かな浜離宮に隣接した空間。そんな水辺で光に包まれるとワクワク心ときめく。

その他の評価コメント

▶再開発により豊かな水辺外部空間が創出されています。

応募者からの推薦コメント

照明によって、いつもの日常とは異なる光景に。

応募者: 丸山 孝典(区内在住)



港区区民景観セレクション

まだ見たことのない景色へ! 東京ポートシティ竹芝のお庭 テーマ:通りの景観



選定にあたってのコメント

人工地盤上の植栽数ある中で、この景観はユニークだ。ビルの渓谷を思わせる空間の中に高低様々な樹林地が開示し、その樹林地を高めから俯瞰すれば目の先には東京湾が見える。今はなき江戸の潮見坂の再現とも言えよう。

その他の評価コメント

▶ 棚田状の空中庭園から海へと新鮮な発見を約束。

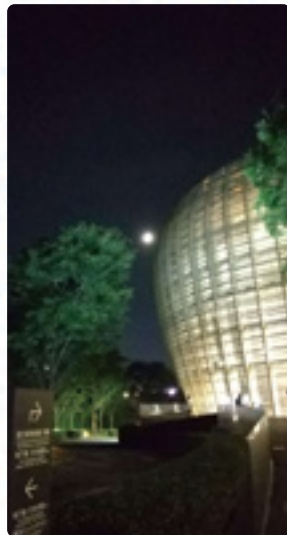


応募者からの推薦コメント

駅からスカイデッキでつながる東京ポートシティ竹芝の空中庭園はまさに都会のオアシス。3階より上のフロアに登ったところ、1階ごとに変わる印象的な風景に驚きました! **応募者:堀田 勉(区内在勤)**

港区区民景観セレクション

ゆるやかな光に包まれる国立新美術館 テーマ:街かどの景観



選定にあたってのコメント

ガラスのルーバーで構成された美術館の外壁が、周辺の木々と呼应しながら緩やかな曲線を描いている。日中は木漏れ日が落ち、夕暮れからは美術館の明かりがにじみ出し、空間と時間との豊かな掛け合わせを楽しむ事ができる景観である。

その他の評価コメント

▶ 夜の灯りに満ちた造型が興味深い。

テーマ:街かどの景観



応募者からの推薦コメント

ソラマメを思わせる柔らかな曲線の国立新美術館に、柔らかな夕方の陽射しが差し込んでいました。 **応募者:堀田 勉(区内在勤)**
美術館の半分が月とマッチして、まるで宇宙船のように見えて昼間とは全く違う空間になりました。 **応募者:河谷 紫(区内在勤)**

港区区民景観セレクション

朝の三解脱門とグラント松 テーマ:私が好きな時間・とっておきの景色



選定にあたってのコメント

増上寺の参道沿いに見返す三解脱門は、その先に続く大門の街並みを縁取ることで、歴史的に形成された都市の軸性を喚起する存在である。人がまばらな早朝には、時を超えてこの風景と対峙した人や出来事を想起できることだろう。

その他の評価コメント

▶ 歴史のある文化的な港区の側面を象徴する景観だと思います。



応募者からの推薦コメント

大殿を背に、階段の上から見る三解脱門とグラント松の朱と緑のコントラストの美しさに感動を覚える。まだ人も少なく、私の一番好きな時間である。 **応募者:町村 庸子(区内在勤)**

審査会委員総評

テーマ設定の難しさ

港区の名所探しのような方向に応募が傾斜しつつあったこれまでの踏まえ、令和5年度は、区民一人ひとりにとって大事な景観という観点をより強く押し出すようテーマを工夫しました。すると、他者が共感しづらいような私的な思いが込められた「写真」も多く寄せられました。区内の景観を人々に伝える狙いがある以上、経験としては私的であっても景観としては普遍性が欲しい。迷いの多い選定作業でしたし、テーマ設定の難しさを思い知らされました。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長
東京工業大学 名誉教授

杉山 朗子

港区景観審議会 副会長
株式会社日本カラー
デザイン研究所
研究フェロー

海辺と台地、歴史と最先端を朝昼晩楽しめる港区

港区は東京湾に面した立地の台地をベースとしているため、地形、歴史、生活、建築、先端技術、季節や朝から夜までの時間など、区民皆様のお勧めのバリエーションの豊富さに改めて驚かされた。西からの入り口でもあるため江戸から令和までの歴史的事件や生活変化などの舞台になった場所も多く、しっかり継承されている。伝統的建築、大切にしてきた緑など、様々な視点や感覚で接することができ、高揚感も味わえる。どなたにもお勧めである。

愛すべき街の景観形成に向けて

景観が形成される要因は様々である。東京のような経済活動が活発な場所では、寺院や公園などの歴史的な造営物に交通インフラの整備や街区の再開発の結果が重層的に加わって我々の目の前に存在する。港区では区民の「推し」の景観を募って表彰する取組を続けている。普段目にする生活圏の景色を見つめ直し他者と共有する作業が、自らが暮らす街を愛しむ人の輪を広げ、新たな景観形成への関心の高まりにつながることに期待する。

奥平 浩

港区景観審議会
区民委員

村井 一

港区景観アドバイザー
合同会社村井一建築設計
代表

まちの魅力を伝えるための視点場の発見

数多くの応募作品のなかから選定にあたって重視したことは、写真としての見え方や切り取り方に留まらず、その場に立って眺めた時に、都市空間としての奥行き、時間や季節の移ろいを感じられるような、「視点場」としての広がりがあるか否かでした。個別の選評でも言及していますが、こうしたまちの魅力を多角的に感じられるような視点場を発見・共有していくことが、港区の都市景観の継承と創造の礎になっていくことを期待しています。

多彩な魅力の再確認

今回で7回目の景観セレクションになりますが、東京タワーの穴場スポットや公園、建物など、港区の魅力的な景観が多数応募されていました。これらの景観は港区の歴史や文化を反映しており、港区に住む方や働く方ならではの視点で選ばれたものだと思います。港区は常に変化し続ける街ですが、その中でも素晴らしい景観がたくさんあると思います。これからも港区の新しい魅力を発見していただきたいです。

岩男 弘美

港区景観アドバイザー
有限会社GAヤマザキ
シニアディレクター

〈景観に関する港区ウェブサイト〉



みどりの街づくり賞
に関する情報



景観街づくり賞
に関する情報



区民景観セレクション
に関する情報



区民景観セレクション
受賞景観ショートムービー

「港区景観街づくり賞」にご協力いただきました。

〈港区景観アドバイザー ※敬称略〉

大橋 尚美 片岡 照博 菅原 大輔
蓮池ゆう子 藤野 珠枝 吉田 慎悟

「港区区民景観セレクション」にご協力いただきました。

〈港区景観審議会委員 ※敬称略〉

齋藤 潮 杉山 朗子 長谷 高史 矢口 哲也
山崎 誠子 渡邊 大志 奥平 浩 根岸 晴美

みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2330

景観街づくり賞 区民景観セレクション

港区街づくり支援部 都市計画課
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2244



FSC®森林認証取得用紙
植物油インク使用

令和6年(2024年)3月発行
発行番号2023293-5011